R４年度辻南小　学校課題研修　成果報告書

音楽科　における深い学びに到達した児童像

【創作においての深い学びに到達した姿】
・ある目的に到達するために、共通事項〔速さ・強弱・リズム・呼びかけと応え〕を操作し、音楽をつくる。
・友だちのつくった音楽と自分のつくった音楽を組み合わせ、共通事項〔音楽の縦と横の関係〕を意識し、音楽の幅を広げながら、再構築していく。
・何度も繰り返し試したり、話し合ったり、録画したりしながら、さらに共通事項と向き合い、音楽の細部までこだわることができる。
【鑑賞においての深い学びに到達した姿】
・曲の流れや変化について聴き取ったことと感じ取ったことを、自分の思いや意図をもって言葉で表したり、体を使って表現したりすることができる。

児童像の実現のために効果的だった手だて

〇ルーブリックを使用し、児童の自己調整力を向上
〇録画機能を使用し、客観的に振り返りができる
〇テーマを設定し、即興的な部分だけではなく、思考しながら作成する音楽へ
〇チームティーチングによる児童の創作のフォロー
〇広い場所の設定により音が混ざらない場所の工夫
〇ホワイトボードによる楽譜の共有
〇ICT を用いた振り返りの共有

実践の成果（〇）と課題（▲）

〇テーマを設定することで、思考しながら慎重に音を選び、楽譜にしていく姿が見られた
〇録画機能により、より鮮明に自分たちの音楽と向き合うことができたグループがいた
〇楽譜をホワイトボード化したことで、すぐに書き込んで共有ができた
〇チームティーチングによりグループへの助言が万遍なく行うことができた
〇子どもたちが選択できる場面が多くあった
〇振り返りはすぐに教員と共有でき、児童のふりかえりをすぐに価値づけできる
▲各グループ、かなり創作に没頭していたため、行き詰っていなければ中間発表はなくてもよい（児童に必要性を考えさせて判断しても良い）
▲場所の設定として、広さはあったが、まだ音が混ざり話し合いにくい状況があった
〇▲ルーブリックを今後も活用し、自己調整力を高めていく
▲音楽科のタブレットの使用については、最適な時と、逆に思考が止まって手間になってしまうときがある。効果的であるかどうかをよく考えて使用するのが大切だと感じる。